

第3回芹ヶ谷公園再整備基本計画懇談会 議事要旨

日 時：平成27年5月14日（木） 9：30～11：30

場 所：町田市役所 2階 2-1会議室

出席者	委員	真野洋介、海老塚耕一、天野真、伊藤弘一郎、高橋倫正、稲木健志、野澤滋享（7名、敬称略）
	事務局	都市づくり部長、公園緑地課、企画政策課、未来づくり研究所、文化振興課、市立博物館、国際版画美術館、地区街づくり課、生涯学習総務課 株式会社 協和コンサルタンツ
公開・非公開	公開	
傍聴人数	1名	

◆ 次 第

1. 開会あいさつ
2. 議事要旨確認
3. 再整備基本計画（素案）について
 - （1）市民意見募集資料の構成について
 - （2）公園の課題を踏まえた再整備基本計画（素案）について
4. その他（次回懇談会の日程等）

市民意見の募集にあたって

- 市民意見を募集するにあたってはポイントを明確にする。市民は計画を構成で考えるのではなく、公園がどう変わるのか、どのように公園が良くなるのか、今までとどこが違うのか気になる。また、近隣住民は別の視点を持っている。近所の公園として必要なものだったり、これまでの経緯を踏まえた内容であるか気になるのでは。（会長）
- 計画自体はこれで良いが、説明する時のポイントが重要である。例えば、トイレがきれい、誰でも入れるようなバリアフリーの公園など。芸術の杜は大きなテーマだが、芸術の杜として何がかわるのか、といった事をわかりやすく説明する必要がある。市民に向けたメッセージが大事になる。（会長）

整備の方向性について

■再整備に向けた方向性について

- 芝生広場や（仮称）国際工芸美術館といった一から整備する以外の部分が、どのように変わるのかを明確にする。公園の構成自体は基本的には変えないのか。それとも、現在の地形を活かし、ゆっくり散策を楽しむ公園なのか。もしくは（仮称）国際工芸美術館や芝生エリアを入れて構成を大きく変えるのか。新しく整備された場所をつなぐ骨格を強化するのか。従来の公園が良かったという方もいれば、新しい公園を求める方もいる。計画図が何を示しているのか説明しなければならない。（会長）

■整備方針と整備機能のつながりについて

- 整備方針では、資料の語尾が統一していない。このようなミスがあると、何がしたいのかが見えてこない。他の委員からもそのような姿勢を問われているのではないか。（委員）

芹ヶ谷公園内や周辺とのアクセス性・回遊性について

■各エリア間のアクセスについて

- アクセスについては、バリアフリーだとスロープになるが、整備の難しい箇所は階段のままと考えている。（仮称）国際工芸美術館ではエレベータを設置し、車いすも移動ができる。具体的にスロープを設置する箇所については、現在、測量中であるため、設計段階で検討する予定。（事務局）

■中心市街地との連携について

- 公園周辺について、車のさばき方、災害時、バリアフリー対策も周辺とリンクさせることで効果が出せるものもある。（会長）
- 周辺との関係性については、大きな課題である。ここに誘導する仕掛けが大切である。文学館通りや原町田大通からのアプローチについても必要と認識している。（事務局）
- 中心市街地の連携として、原町田大通りなどに期間限定でオブジェを展示したりオープンテラスなど、複合的に組み合わせて公園へ誘導していきたい。（事務局）
- 南側からのアクセスとして道路の拡張は、都市計画道路以外は難しい。公園内の都市計画道路整備が整備されれば、計画されている北側駐車場でアクセスもしやすくなる。（事務局）
- 公園のイメージが滲み出して、いつの間にか公園に入っていたというような公園があってもよいのではないか。公園ありきのアプローチだけではなく、駅を降りたら公園の雰囲気があって、いつの間にか公園に入っているような、にじみ出しの公園があっても良いのではないか。（委員）

■回遊性について

- 回遊性、高齢者の移動は難しい、老若男女の集いという表現は矛盾している。抜本的な地形との関係、全体の地形をみて歩道や散歩道を作ることが大事。公園全体のイメージがゾーニングで示されているが、それをつなぐ回遊性が図面では見えてこない。（委員）
- 公園全体をつなぐことが回遊性と考えている。樹林地を切り開ける場所については高低差の処理を検討したい。（事務局）

防災機能について

■防災機能について

- 芝生広場は、防災機能に対応していくと思うが、災害時にどのように使うのかをイメージすることが重要である。大規模な災害で本当に利用できる公園なのか。北側は自家用車の駐車場であるが、大型車への対応や、緊急時の車両が南側に来た場合に、北側の方へ物資が輸送できるかなど。ある程度、地域の防災計画の中に、この公園ができることによってどのように変わるのか関係部局と協議した方が良い。（会長）
- 大規模な災害があった場合に公園をどのように利用できるのか。この辺の唯一の大きな公園である。学校だけではなく、いざという時のトイレや水。何かの時に利用できるように想定した方が良い。（委員）
- 水とトイレの問題、防火水槽や下水道など、水関係のインフラ整備については、これまでの

整備とこれからの整備を照らし合わせていく必要があるのではないか。（会長）

- 例えば、釜戸として利用できるベンチや、マンホール型のトイレなどの仕組みについて、設計段階で検討する必要がある。（事務局）
- 芝生広場の前面道路には下水道が通っている。また、公園エリア内に水道局の施設があり上水道施設が応急的に利用できる。（事務局）
- 防災倉庫を整備すれば、イベント時に必要ないすや机などの備品をしまっておけるのではないか。災害時にも利用できる。（委員）
- 災害時に必要なものについては、災害の想定により変わらと思う。防災倉庫はどれくらい必要であり、どれくらい設置するのか重要な課題となる。（会長）

公園のマネジメント・運営について

■公園マネジメントについて

- 公園のマネジメントを考えなければ。災害時、イベント時、日常利用などによって運用は違う。それぞれの場面でのやり方を考える必要がある。（会長）

■公園の運営について

- 日本の公園文化は比較的新しく、再整備は各地でも共通の悩みの種である。近年、公園に対する考え方や法律・制度が変わり、もっと公園が利用できるのではないかと、特に民間企業や住民が気付き始めている。ハード的なことはしっかり考えられており、幕の内弁当で色々な物が収まっていると感じる。ソフト面、運営をどのようにするのか、サービスをするのか、財政においても密接に関わっている。何かの仕掛けができるのかなと思う。（委員）
- 町田市はベットタウンとなっているため、新しい居住者、外国人もいる。イベントやお祭りにからめて、避難ルートを通るようにしてはどうか。東日本大震災では、隣近所のことをよく知っていてそれで助かったと聞く。町田は公園を中心に地域のコミュニティが出来上がっているという公園のイメージも良いのではないかと。（委員）
- 公園イベントについては、兵庫県立有馬富士公園が有名である。来園者がやってほしい、やりたいイベントを紙に書いて提出する。毎日、様々なイベントが行われている。地元民だけでなく、来訪者が多いほど活性化して変っていく。公園にお金落ちて発展していくこともある。公園も一つの経営学である。どうやったら人が来るのかを考えること。（委員）
- 公園整備のスケジュール上、運営を考える期間がない。行政は整備と管理は得意だが、運営も必要。整備と運営は一体である。基本設計の時、運営を考えるのが良いと思う。作っても使えるのか、ということが市民は気になる。参画してもらえそうな公園にしてみよう、どこに市民が関わられるかが重要。（委員）

公園名称（愛称）について

■公園のキャッチフレーズについて

- キャッチフレーズも要るのでは。芸術の杜、といってもピンとくる方とこない方がいる。キャッチフレーズが浮き出てくる計画が良いなと思う。（委員）
- 正式名称ではなく、愛称で対応できるのではないかと。（会長）
- 愛知県の万博跡地の公園は愛地球博公園という正式名称があるが、地元の人はこちらをパークと呼んでいる。キャッチフレーズを募集しても良いのでは。（委員）

その他

■警備員室の場所について

- 地元としては、多目的広場の左上の所の小高くなっている場所に警備員室を配置してはどうかとの意見である。来訪者から、警備員室が分かりづらいといった指摘がある。（委員）
- 公園全体として考えた場合、国際版画美術館がある方は、来園者も多く不安感が少ないが、小田急線の方は樹木が鬱蒼として警備員室も分かりづらく不安があるとの声があるため、現在の場所とした案である。市民意見公募も含めて詰めていきたい。また、（仮称）国際工芸美術館も新たに整備される。常に常駐している警備会社にも確認し、適切な場所を考えていきたい。（事務局）

■地元要望について（トイレ、サクラ、街灯、樹木の整理、冒険遊び場の拡張）

- 総会で出された意見は、警備員室を真ん中に持ってくる、トイレをきれいにしてほしい、桜を植えてほしい、街灯を明るくしてほしい、鬱蒼としている木を整理してほしいとの5点を要望した。（委員）
- 最近オープンした冒険遊び場。土日には利用者が多い。子供で溢れており利用者が増えている。将来、増えることが予想されるため、拡張してほしいとの意見がある。（稲木委員）
- トイレが少ないのではないか。（委員）

■団体利用に対応できる駐車場について

- 芹ヶ谷公園では芸術の杜としての役割がある。市内小中学生の団体が利用できるよう、大型車の駐車スペースがあっても良いのではないか。将来的にモノレールが通る場合も考慮し、事前に用地の確保が必要であり、アクセスルートを事前に考えたほうが良い。（委員）
- 日常的に利用者が使いやすいようにしてもらいたい。外部からも来てもらいたい。バーベキュー広場やレストコーナーは良い。ステージの規模にもよるが、小中学生のイベントで活用する事で週末を含め活気が出てくる。その場合には駐車場の問題がある。大きなグループ利用にも対応できるよう、近隣には住宅が迫っているため、事前に用地確保が必要である。（委員）
- 現在、国際版画美術館の右側の駐車場は、中大型車の利用を考慮する。その他借地である第二駐車場は、バスを停めることができ、普通車も70~80台駐車できる。しかし、借地であるためいつまで借りられるか不透明である。（事務局）
- 芝生広場の横に概ね200台程度の普通自動車駐車場を確保する考えである。当面、借地についても活用していきたい。また、芹ヶ谷会館の駐車場は、公園利用者は利用できないが、緊急時は活用も考えたい。（事務局）

■多くの人を訪れる仕掛けについて

- どうやって公園に来てもらうのが大きな問題。現在の公園は谷底にあり、近所でも行きにくいイメージがある。入口にはエレベータを作ってアクセスするとあったが、その程度では生ぬるいのではないか。日常的に利用できる魅力のあるもの。前回にも話があったが、簡単なコーヒーショップなど、座って何か飲める場所が要るのでは。バーベキュー広場は良い。（委員）

■桜の植栽について

- サクラの季節は盛り上がる。どの程度の木を植えるのか。苗木だと10年20年後となるし、相当な費用もかかるのではないか。（委員）
- 桜は通常であれば20cmくらいの苗木を植える。費用面だけでなく、桜は移植にあまり強く

ないため、小さい苗から植えた方が良い。だが、全てを苗木であるのではなく、大きな木をポイント的に植栽できるかを検討したい。（事務局）

■事業費について

- 事業費はどの程度を考え、どこをメインにやっていくのか。芸術の杜とするのであれば、オブジェも増やす必要と思うし、相当な資金をつぎ込まないと難しいのではないか。芝生広場についてもメンテナンスの費用がかかる。（委員）
- 市は、3つの公園に集中して投資する予定である。具体的な事業費は未確定だが、（仮称）国際工芸美術館が2019年度に開館予定である。公園再整備についても一定程度の整備を進めていきたい。（事務局）